

## <新型コロナウイルス感染症による診療停止について>

久米島において、2022年7月中旬以降の新型コロナウイルス感染症の新規患者数は1日30名以上と増加傾向になり、当院の新型コロナウイルス感染対応病床の使用率は80%前後で推移していました。そのため、久米島内での新型コロナウイルス感染拡大による医療提供体制等が逼迫し、一般の医療体制が提供できない状況であると判断し、2022年7月26日から診療停止としています（8月6日執筆時点）。

具体的には、医療者により救急患者と判断された患者さんのみを院内診療等の対面式診察とし、緊急性のない、あるいは、緊急性の低い患者さんに関する非対面式（電話診療等）を行い、緊急対応が必要な患者さんと入院治療が必要な患者さんに医療資源を重点的に振り分ける措置としました。また、久米島内で発生した新型コロナウイルス感染症の軽症患者さんには、島内で自宅療養、あるいは島外で宿泊療養（または自宅療養）が行えるように、病院独自の体調確認・訪問観察、患者移送の経路作成を行い、また、保健所の指示のも

とで沖縄本島での宿泊療養に繋げるなど、島内の宿泊療養ができない軽症の方への対応などにも適応を続けております。

このように、外来の一部診療制限から診療停止中の対応は、島民のみなさまのご理解と、病院と行政・関係機関との密な連絡と迅速な行動があって成り立っている状況となっています。病気そのものへの不安、持病による重症化の懸念、生活保障・保険に関する不透明さ、漠然とした先の見えない状況等、島民のみなさまの声は、町行政と共に最前線でできる限り聞き続けています。しかしながら、その全てに答えられずに苦悩・苦慮しながら、日々、みなさまに起こっている状況に同じ島民として向き合っています。今後も予断を許さない状況ではありますが、協生の心（ゆいまーる）と共に、迅速な実行動を心がけて参ります。どうぞこれからも、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

## 「COVID19・オミクロン株と小児新型コロナワクチンについて」

公立久米島病院  
小児科 渡邊 幸

### <オミクロン株と小児：一般>

新型コロナのそれまでの株と比べて、オミクロン株では小児の感染者の割合が激増し、20歳未満が全体の3割となっています。オミクロン株による小児の症状の特徴として、突然の高熱、嘔吐、後に咳などが生じますが、多くは軽症で自宅での対症療法で数日で治癒に向かいます。一方で、グループ症候群、肺炎、熱性けいれん、嘔吐・脱水等の「中等例」が増え、久米島でも入院が必要となるケースが増えています。

### <オミクロン株と小児：重症例>

2019年12月～2021年12月の間、COVID19による20歳未満の国内死亡例は3例で、小児では重症化率が低いと言われていました。しかし、オミクロン株では急性脳症、心筋炎による死亡例が急増し、2022年1～7月のわずか7ヶ月で、小児死亡例が10歳未満で8例、10歳代で6例と、それまでの10倍近くに増えています。

### <オミクロン株と新型コロナワクチン>

5～11歳に対する新型コロナワクチンの発症予防効果は従前株では90%以上だったことに比べ、オミクロン株では50%となり、発症予防の観点からは効果が落ちているように見えます。しかし、世界各国の大規模な研究成果の蓄積から、オミクロン株においても入院予防効果は68%、重症化予防効果は最大80%と報告されており、高い効果があることが確認されました。

### <新型コロナワクチンの安全性>

国内外の5～11歳に対する新型コロナワクチンの副反応報告の中では、発熱が最も多く15%程度に見られましたが、成人よりも少ない割合であり、最も懸念されていた心筋炎の発症率は2.7件/100万人と、12歳以上と比べて少ない結果でした。

小児科学会では、上記のように小児への新型コロナワクチンはメリットがデメリットを上回ると判断し、8月10日に「**5～17歳の全ての小児に新型コロナワクチンの接種を推奨します**」という声明を出しました。

今まで様子を見ていたという方も、ぜひ受けに来てもらいたいと思います。

小児の新型コロナワクチン接種は久米島病院にて個別で受け付けていますので、久米島病院（☎985-5555）へお問い合わせください。

